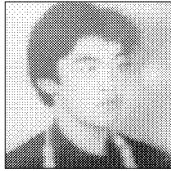
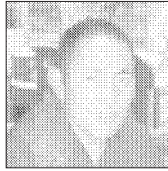


クンチョク・ツェテン 30才 死亡 2013/12/3



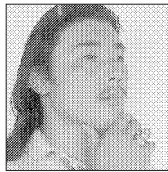
午後5時頃、ンガバ県メルマ郷の中心街路上で焼身抗議を行い、その後死亡した。妻と親戚数人は当局に拘束され、行方不明となっている。数か月前、彼は友人たちに政府のチベット弾圧に対して焼身抗議するつもりであると話していた。

ツルティム・ギャンツォ (僧侶) 43才 死亡 2013/12/19



アムチョク僧院の僧侶。午後2時半頃、アムド、サンチュ、アムチョクの路上で焼身抗議、その場で死亡した。彼はダライ・ラマ法王の帰還、パンチェン・ラマ11世の解放とチベット人の苦しみのために焼身すると遺書を残した。当局は住民に対して、焼身現場に集まったり焼身者を弔うことを禁じ、反した者は罰せられると通告した。

パクモ・ドゥンドゥブ 29才 死亡 2014/2/5



午後9時半頃、アムド、レブゴン、ツェコク県ドカルモ郷の学校前で焼身抗議、その後死亡した。駆けつけた部隊は彼を連れ去って遺灰のみを家族に返し、それを川へ流すように命じた。ドカルモ郷では2012年11月から12月にかけて17才のベンチェン・キラ4人が焼身しており、彼で5人目となった。

ロプサン・ドルジェ (もと僧侶) 25才 生死不明 2014/2/13



午後6時半頃、アムド、ンガバのキルティ僧院近くの「勇者の道」と名づけられた路上で焼身抗議。駆けつけた部隊に連れ去られる時には、生きて両手を合わせる姿が目撃されているが、その後の消息は不明。この日、僧院では新年のモンラム(祈禱会)が開かれており、彼は他のチベット人とともにチャム(仮面舞踏)を見ていた。

ロプサン・パルデン (僧侶) 20才前後 死亡 2014/3/16



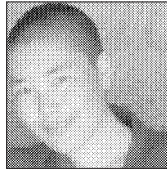
午前11時半頃、アムド、ンガバのキルティ僧院近くの路上で焼身抗議を行い、その後死亡。彼は微信(中国のインスタントメッセージ)上に隣人である中国人と理解しあえることを願う言葉を残していた。この日は2008年に同僧院の僧侶ロプサン・ブンツォが焼身抗議を行ったのと同じ日だった。

ジグメ・テンジン (僧侶) 29才 死亡 2014/3/16



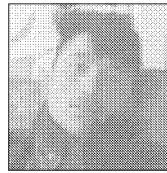
16日早朝、アムド、レブゴン、ツェコク県ソナク郷にあるソナク僧院近くで焼身抗議、その後死亡した。彼はソナク郷出身で、レブゴンのロンウオ僧院で10年間学んだ後、地元で僧院に帰っていた。控えめな性格で、菜食を続けていたという。レブゴンでは2012年に多くの焼身抗議者が出ていた。

ドルマ (尼僧) 30才前後 生死不明 2014/3/29



午後3時頃、カム、バタンのバ・チュデ僧院近くで焼身抗議を行い、病院へ運ばれた。地域でも豊かな家の出身で、兄弟姉妹のうち4人も僧侶、尼僧である。

ティンレー・ナムギェル 32才 死亡 2014/4/15



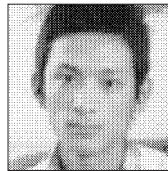
正午頃、カム、タウのコンサル郷付近で焼身抗議を行い、その場で死亡した。彼は数日前から友人たちに「チベットのために焼身することは意味のあることだろうか?」と尋ねていたという。当局はこの焼身抗議の写真を海外へ送ったと決めつけて、彼の弟リクチュンを拘束した。

クンチョク 42才 生存 2014/9/16



アムド、ゴロ州ガデ県ツァンコル郷の警察署の前で焼身抗議を行った。知り合いによって現場から西寧の病院へ運ばれて治療を受けたが、その後の状況は不明。

ラモ・タシ 22才 死亡 2014/9/17



深夜、アムド、ケンロ、ツォエの市警察署前で焼身抗議を行い、死亡した。遺体はすぐに火葬され、家族には遺灰のみが渡された。

焼身抗議の背景の概観と、焼身者たちの記録をまとめたネットブック(無償ダウンロード)

## 「太陽を取り戻すために — チベットの焼身抗議 — 」

To regain the missing Sun ~ Self-immolation protests by Tibetans

by 中原一博 (チベットNOWルンタ)

<https://docs.google.com/file/d/0B6cmrkvyxC23QmhCRTZyeWRrNm8/edit>



SFT(Students for a Free Tibet: スチューデントズ・フォー・フリーチベット)は、非暴力で平和的な社会的、政治的、経済的活動を通じて、世界中の若い世代にチベットで起こっている人権侵害の現状を知ってもらい、支援活動への意識を高めると同時に、チベット問題の平和的な早期解決を求めることを目的に設立された団体です。1994年にアメリカで発足したSFTは現在までに高校、大学、地域を拠点とした650の支部を数える団体に成長し、35カ国でチベット問題を訴えています。

SFTJAPAN

検索